



題字 小沢信三郎 会長

航 跡

-31-

早稲田ヨットクラブ

平成7年2月発行

発行者・事務局長 白石裕之
編集・広報室 米田晴二
石田晋也

早稲田ヨット部 小島合宿所 増改築 来る2月9日に完工!!



平成6年11月2日 地鎮祭

小島合宿所の増改築については永年にわたり小島様側と当クラブとのお話し合いを続けていたところ設計もきまり、11月2日地鎮祭、25日上棟式が行われました。

小島家の皆さん、小島量为株式会社、設計、建設の関係者、大学体育局各先生、矢頭部長、OB多数が出席されました。

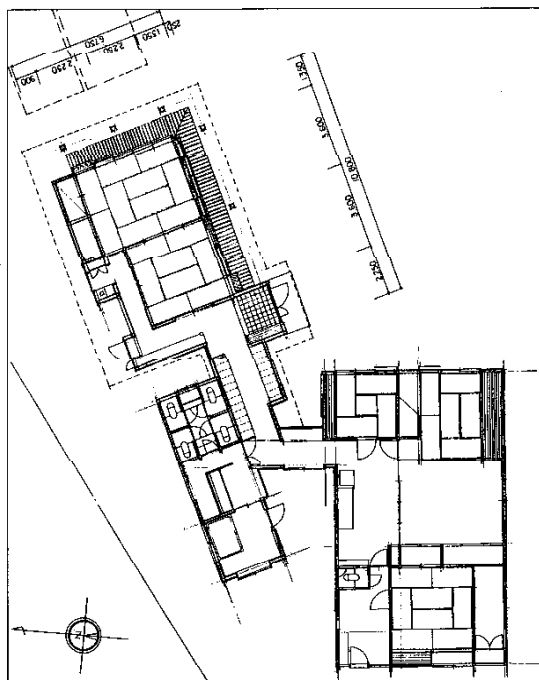
今までの広さ35坪部分の補修に加え、17.5坪が増築されます。10畳と、8畳の二部屋、セール置き場、ロッカーなどです。

完成後は新たな『合宿所・使用基準』をさだめて注意深く使わせていただく必要があります。この合宿所は1968年以来、全く小島家のご好意により使わせていただいているものです。

加藤文生OBを中心に、堀江先輩・杉山・石田・木村各OBが大変な努力をされました。こと周知のとうりです。

費用は、新築部分は小島様側ご負担。補修改築（主として台所部分）は早稲田側負担。大学と一部OB寄金（別途ご案内ご協力をお願いすることになります）によります。大学当局と交渉中。

現役学生諸君には良い成績をあげて合宿所に花を添えてくれるようお願いする。



合宿所設計図 上(東側)が増築部分



増築部分 平成7年1月18日現在

増改築・完工落成式のお知らせ

この度の増築部分の10畳と8畳の2部屋は南側に面した陽当りの良い、OBの皆さんにとり将来隠居所にしたいかなるような大変着きのある設計です。

完工を祝い落成式を行ないます。多数ご参会下さい。

日時 平成7年2月12日(日)
式典 11:00より(時間厳守)
会費 5,000円、但し同伴者は3,000円
(小さな子供さんは無料)

SAIL FAST SAIL SMART NO MISTAKE!



私は、ヨットというスポーツはたいへん巾の広い、奥の深いスポーツであると思っています。いろいろなヨットの楽しみ方があります。それを、私はヨットイングという言葉で表しています。学生たちが単に470やスナイプのみにとらわれず、ヨットイングに興味をもち、目を開いて欲しいと思います。そうすることによって、ヨットが面白くなり、楽しくなり、毎日の練習にも目的意識をもって充実したセーリングができるようになることを期待しています。それがレース結果にもつながると信じています。早稲田の学生がセーラーを越えたシーマンとしての評価を得られるように願っています。これを指導の基本としました。この考えはいまでも変わっていません。今後も変わることはありません。

座学ではヨット教養講座的な話をしました。そこからヨットイングに対する興味が生まれることを期待したからです。

帆走練習は練習目的を明確にすること、それも乗艇メンバーだけに止まらず、サポートメンバーも含めた全員が、出艇前にその日の練習目的を確認し、理解し、だんだん打ち合わせるためにブリーフィングを行うこと、そのために出艇時間が20~30分遅くなくても必ずそれを行うようにしました。練習の効率化であります。

いまのヨットは私の経験したヨットをはるかに越えた、異質ともいえるものになってしまいました。従って、実際の技術指導は、若いコーチやセールメーカーのプロ？コーチをお願いしました。特に艇のチューニングや基本的なハンドリングの面で効果があったと思います。

基本的なボートハンドリングを完成させ、それにタクティクスを加えて行くことは練習の順序ではありませんが、それを如何に集中して効率よく行うかが重要なポイントであり、それにそった練習を行うことを求めました。

効率のよい練習を行うためには、各クラスリーダーの独創性が絶対に必要であります。いままでやってきたことをなんの疑問ももたず、そのまま踏襲するのではなく、こんなこともやってみよう、こういう方法はどうかだろうかというオリジナリティーが練習内容を充実させます。

『Sail fast, Sail smart, No mistake』ニュージーランドの高名なセーラーでありコーチであるロイ・ディクソン(クリス・ディクソンの父親)から教えられた言葉です。

Sail fastとはヨットを速く走らせることです、Sail smartとはのびのびといきいきと帆走することです、そしてNo mistake. よくかみしめてみると、これはスゴイ言葉であると思います。さすがであります。これを実行できればレースには負けません。学生たちに始めに紹介したことばです。

学生ヨットというのは、ちょっと異常な世界でもありません。海に向かって唱い、叫び、先を争って出艇するレースの日の葉山海岸は世界的にも異常な世界です。しかし、それが日本の学生ヨットなのです。学生ヨットにはチーム全体の勢いというもの絶対になければなりません。

一連の春のレースを終えて、早慶戦に両クラス勝ったところから勢いが感じられるようになりました。

今シーズンのレース成績をどう評価するかは皆様にお任せいたします。ただ、一生懸命真面目にやったことをご報告いたします。

休日はできるだけ海に出かけるように努めました。しかし、学生と接することができたのは47日でした。ということは、全日程の殆も見られないということです。従って私は学生たちに自主的な運営を求めています。

自主・自由・独創を基本的な考えとして行きたいと思っています。

若いコーチングスタッフ、現場に足を運んで下さった若手のOBの皆さん、有難うございました。

OBの皆様から寄せられたご支援、ご協力に感謝いたします。皆様のご支援が学生たちをどれだけ勇気づけたことか。OB・学生の一体感が早稲田の総力となります。変わらぬご支援をお願い申し上げます。

1994・11・28

武村 洋一

ヨット部の成績；94年度

	《470》《スナイプ》《総合》	《順位》
関東インカレ (5月)	優勝 13位 3位	日・関・早・明・慶・法
早同戦 (5月)	負け 負け 負け	
早慶戦 (6月)	大勝 勝 大勝	
五大学戦 (9月)	優勝 3位 2位	日・早・明・慶・中
六大学戦 (9月)	優勝 2位 優勝	早・法・明・慶・立・東
関東インカレ (10月)	2位 4位 3位	日・関・早・明・法・中
全日本インカレ(11月)	2位 6位 4位	福岡・日・同・早
	(全日本順位)	
470……	福岡、早稲田、日大、同志社、関西、立命	
スナイプ…	日大、同志社、福岡、京産、明治、早稲田	
	(学生部員構成)	
	4年生 11人、3年生 7人、2年生 5人、1年生 4人	
	女子マネ 6人、計 33人	
	(概評) 全体に伸び伸びと活躍してくれた。細かいテクニックも指導され技術的に向上、全国4強の仲間入り。ボカ、トラブルがあり大魚を逸した。	

ワセダ・ヨットクラブ'94

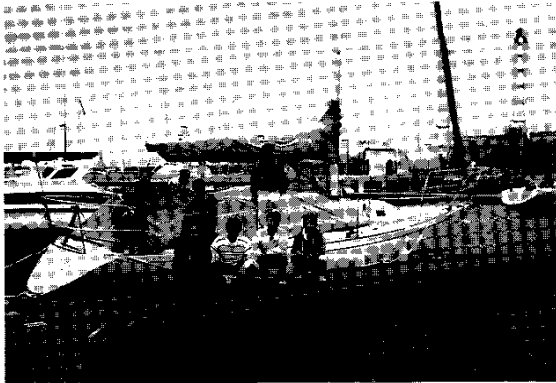
(理事会報告)

*平成6年(94)度の総会。3月18日、新築なった『永楽倶楽部』で開催。

土肥理事長体制2年目。鎌田監督辞意。後任に武村洋一総監督。

会費改定検討に入ることを承認。小沢信三郎会長より新OBにバッヂとエンブレム授与。

*理事・清水栄太郎氏3月14日急逝。NORC専務理事として会議中倒れられ意識戻ること無かった。痛恨の極みでした。20日葬儀。ヨット界と印刷業界の合同葬。石原慎太郎氏、並木茂士OB弔辞。日本全国のヨット界の顔が集まる。都の西北でお送りした。



清水栄太郎氏(右端) 於夢の島マリナー・げっこう船上

*第5回大学OBレース。諏訪湖。6月12日。11大学参加。堀江、加藤(久)、大塚、位田、浜田、梅原、原田が参加。今年もこの時期この場所。前夜祭も大切な行事。レースはスナイプ2隻とシーホッパー1隻。参加に意義あり。

*第4回A級ディングー全日本。7月31日。(別掲記事参照)

*体育実技講習の指導応援。岩井。8月初旬の10日間。稲龍アッキ老朽のため不参加。OBグループの“げっこう”が理事会要請をうけて協力参加。

*夏のつどい'94。三戸浜。多数参加。OBレースも学生クルー付きで。小沢会長も元気。学生とOBの交流の良い機会です。

*第23回、4大学OB戦。10月23日琵琶湖。スナイプ1、A級ディングー1。林忠治さんもテイラーを握られた。来年は関東で。今年は関西で人事移動が多かったためか集まり悪く困った。

*毎月第3木曜日。6PM。永楽倶楽部。理事会です。理事以外の参加も歓迎。その都度会費精算方式。3000円~4000円位。若返りが最大のテーマ。

*初声漁協から『海面利用に関する協定』を交わすこと提案されている。慶応も同様の立場で12月は協同協議をした。土肥理事長ほか出席。何等かの協定は結ぶことになる。



合宿所増築の上様式に於てご挨拶する小島様

*年会費は15,000円に決定。95年度から実施。現在自動振り込み160人。なお、従来の10,000円は、16年間維持しました。

*ご寄付もいろいろお願いしました。

1)監督コーチ支援基金;現場を面倒見ていただくためせめて交通費くらいでもだしたいという趣旨。ご賛同者84人。171万円になりました。大口寄付は、清水正博様30万、矢頭部長様10万、坪出善男様10万。以下略。

2)全日本遠征支援募金;50万円のご寄付をいただいた。

*事業部でポロシャツを作成、販売した。

*わがクラブの活動は<学生コット部を支援><会員相互の親睦>を目的としています。かわらぬご理解とご支援をお願いします。

*稲龍問題。これが未解決で越年した。現状はスターン・デッキの腐敗で危険のため、使用を控えている。船体・エンジンは悪くない。数少ない木船である。運用方法を限定して修理すべきか。新年度の検討課題。最近、遊佐OBが空気を入れかえにいらしてくれている。

*若いOB諸君の活躍は各種ディングー、クルーザーの世界で積極的。

*会報<航跡>編集にも若い川原OBが参加する。新方針は3月の総会までに決めます。

(本欄文責;米田)



太平洋箱門会(8月初) 於臨山港

スナイプ63才

皆さんご存知のスナイプは、生まれてから既に63年、世界26ヶ国に普及し、登録隻数も28,000隻と、永い歴史と世界中にファンがいる大ファミリーです。

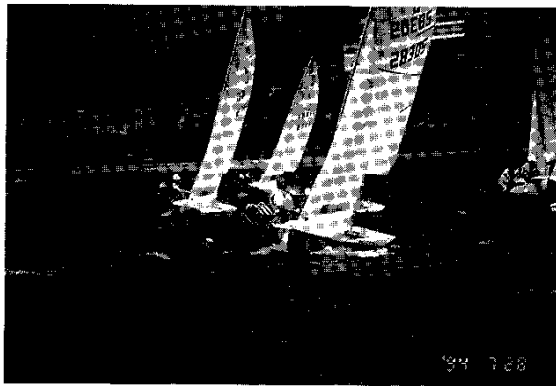
私自身、早稲田ヨット部でスナイプに始めてめぐり合ったのが昭和26年、それからの縁がもう43年続いています。

その当時A級テインギーと比べて2枚帆で恰好がいいと思ったスナイプも、もう古いデザインのものになってきましたが、まがまが存在価値が大いにあると云う事は、丁度定年を迎える年頃になった私達にとっても励まされる嬉しい事です。

今年の夏、その世界のスナイプファミリーが日本にやって来ました。7月最後の週、蒲郡でワールドマスターズ、8月第一週に浜名湖三ヶ日でワールドジュニア、そして8月中旬に横浜八景島でワールドウィメンズと文字通り年寄りから青少年、男女合わせて“生涯スポーツとしてのヨット、それはスナイプ”-One for all-を楽しみました。

丁度三年前、スナイプ級国際競技連盟 (SCIRA) のコモドアになった時、日本で三つのワールドを、と打ち上げたのが、バブルガハジケテ、開催費検出に四苦八苦しましたが、幸い多くの方々のお力添えで無事開催する事ができました。

マスターズは、45才以上のスキッパーと、クルーと二人合せて80才以上というのが参加条件ですが、親子、兄弟、夫婦、その他先輩、後輩、友人同志と楽しいペアが多く、12ヶ国59チームが、毎晩のパーティーを含めてタップリ楽しみました。



快走 松本父子艇

ヨット界の長老84才の平田さん、75才の同志社の森安さん始め過去スナイプやオリンピックで活躍した石井さん (慶応)、田上君 (中央) や若手? では二宮君 (立教) と混じって、私も息子の真也と一緒に参加し55才-64才の部で22隻中4位と満足出来る成績をとれました。

親子二代ヨットをやっているながら、二人揃ってワールドに出る事は感激で…もっとも喜んでいるのは親爺の方で、息子の方は、動きの悪い、重いスキッパーのめんどうを、これも親孝行の一つで仕方ないかとみていた様です。

早稲田からも同期の浜田君や地元の山内君が出場しましたが、クルーザーで一杯飲みながら…とは別の緊張感とアフタレースの国際色豊かなパーティーの素晴らしい楽しい味が忘れられず、来年のノルウェーでの大会に又出ようと話合っている所です。

OBの皆さんも素晴らしいセーリングの世界を忘れず、潮気の満ちた人生をせひ送って行って下さい。今年全日本マスターズは8月5、6日蒲郡であります。お問合せは松本まで、…連絡をお待ちします。Happy sailing!!
松本富士也 (30年卒63才)

敗者に語る 言葉なし

94年度 ヨット部主将
原田勝弘



今、一年間を振り返り感じることはまず、『学生中心の技術主義』であったということ強く感じました。学生4年間で身につけられる技術の数々を第一におき、それに集中できるようにチームをひっぱっていったのですが、全日本大会での結果は<4位>でした。

ヨット競技は順位が、2位であれ、最下位であれ、きちんとつけられます。しかし全日本を終えてみて感じたのは<2位以下は最下位と同じ>という事です。なまじ2位だの3位だのと入賞があるばかりに、優勝に対する考え方、練習法が甘くなっていたのではないのでしょうか。ボクシングのようにリングの上で1対1であれば、やはり勝者と敗者しかありえないのですから<必ず勝つ>と考えるのではないのでしょうか。

今年のチームに欠けていたのは、<必ず勝つための練習法>だったと思います。ここ何年も早稲田は<1位>になっていません。そのために“このようにすると負ける”というやり方と、私たちの今年のチームも含めて“悪い見本”は無数にあります。これらを増やしつづけるのは早稲田の本意ではなく、敗戦の歴史と伝統にピリオドを打てるよう後輩-現在の3年生以下は頑張りたいと思います。今年はその実行することができず、自分の甘さに腹が立ち非常に悔しいです。

早慶戦も全日本も勝負は同じです。2位はありません。今になって痛烈に思うのです。『敗者に語る言葉なし』です。

最後になりましたが、今年1年間このチームに多大なるご支援ご尽力をいただきました諸先輩方に心より厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

A級ディングーを、生き返らせよう

大 興太郎

あのテイラーをもう一度握りたい、ガンター・ロープを名人芸で引っ張りたい、バウをたたくあの波の音をききたい、……このあつい思いの人々が集まって“**A級ディングー保存会**”が発足したのは今から8年前。

地道な整備、楽しいクルージングを続けるうちに、他の大学にも多くの同好の士が現れ6隻くらいで全日本選手権と号していたのですが次第に発展、今年は朝日新聞にも載るほどの行事になりました。他の大学OB会では打倒早稲田を目指してフネを輸入する騒ぎ（実は安い）にもなりました。

今年の全日本選手権は、関東・関西・九州から15チームが参加、三浦半島武山沖で行われました。晴天、南南西10-11メートル。45才から70才代の参加。

輸入艇は意外に走らない……などと言っている内に沈やトラブル続出。早稲田も木部老巧のためアイボルトが浮いてしまい7レース中、4レースをリタイア。絶好の早稲田風なのに残念な結果だった。

今年は新艇が5艇で、博多湾チームが国産とイギリスFRP、慶応がオランダ、日大はデンマーク、中央が国産。新艇2隻の九州に優勝をさらわれた。

この日参加したOBを中心として、“**A級ディングーを保存する会**”ができています。老化したフネを修理し生き返らせ、再び皆さんと“**A級ディングー**”を楽しみましょう。

保存会では保有2艇の大手術を実施することを決定しました。一人でも多くの方々の参加を得たい思いで“**修理資金**”を募集することになりました。今あるのは（1号艇と21号艇）です。なつかしい51や89にも発展できるようご賛同を期待します。

＜**A級ディングーを保存する会**＞石井章夫、岩本誠、千葉栄作、杉山博保、舟岡正

（〃事務局）加藤文生、大 興太郎、北島武夫
FAX問い合わせ；03-3442-6233（共学産業気付）

＜目標額；100万円＞1口1万円。

1口でも多くお願いします。

＜振り込み先＞富士銀行 新宿副都心支店(普)906243
A級ディングーを保存する会

会長 石井 章夫（イシイ・アキオ）

＜募集期間＞'95 1月1日～3月31日



相模湾武山沖で行われたA級ディングー全日本選手権 「舵」社提供 撮影・岡本 甫氏

第23回 四大学OBヨットレースレポート

H6年10月22日～23日同志社の当番校で天津市下阪本6-3-1 湖雁荘で前夜祭。レースはその前で行われた。早稲田は少数精鋭で2日間頑張りましたが平均年齢60才では遺憾ともすることができず第4位に終わりました。ちなみに優勝は関学、2位は慶応、3位は同志社。早稲田の出席者は関西からは、S21年林さん、S48年濱田さんの2名、東京からは、S28年石井さん、S30年千葉さん、S31年舟岡夫妻とS30年濱田夫妻の6名。

レースはAクラスデンギは林、石井、千葉組でスナイプクラスは濱田、舟岡組で、四回戦をフル出場で頑張りました。関西からの出場がなかったのは<60才以下の>誠に残念でした。次回の時は多数のお出掛けを期待します。

なおH7年の第24回は慶応の当番校で熱海で行われる予定です。日時は今年はA級デンギーの全日本が琵琶湖で行われるので、その日程と覗み合わせてきまるそうです。

他の大学OBは集まりもよく、いつも20余名出てきて交流を深めております。是非同期の会の集まりとして活用して、多数の参加をお願いします。

(S30年浜田)

第7回関東ヨット

メンズクラブ総会について

年齢55才以上で、関東地区在住のヨット愛好者を会員として、会員相互の親睦向上を目的とし、毎年1回総会を行う。

今年は11月15日に銀座ライオンピアホール6Fで18大学OBと一般、NORC他の157名の参加があって、大いに交流を深め、盛会でした。早稲田の参加者は小沢 信三郎・堀江 喜三・加藤 久直・石井 章夫・佐伯 浩一・位田 幸治・安藤 一夫・是枝 隆克・松本 富士也・千葉 栄作・舟岡 正・濱田 裕の12名でした。

早稲田の世話人は堀江さんと濱田がやっています。いつも11月にやりますので同期会の集まりをかねてお出掛けください、他のOBと交流を深めてください。

<大学別出席人員数>

早稲田…18名	同志社…2名	成蹊…1名	東北…1名
慶応…18名	日大…17名	立大…12名	横浜国大…16名
中央…21名	東大…9名	明治…8名	関東学院…9名
法政…8名	商船…4名	千葉大…1名	横浜市大…9名
京大…6名	水産…2名	一般…15名	

(S30年浜田)

メルボルン／大阪

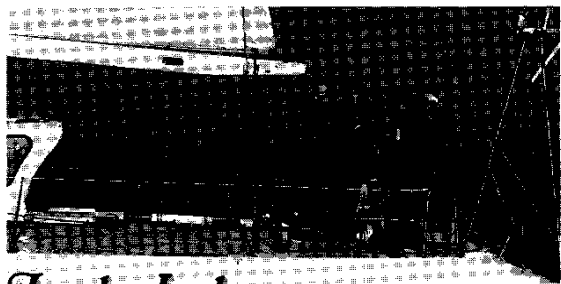
ダブル・ハンド・ヨットレース'95

渡辺OBが挑戦、今、ソロモン諸島南下中。

1983年(昭58)卒業、渡辺輝雄、33才。岐阜県海津高校時代からのヨットの俊秀。彼の生活はヨット一筋です。今回“チャレンジ岐阜”チームとしてこのレースに参加します。来る3月25日メルボルンをスタート、4月下旬／5月上旬大阪北港マリーナまでのレースです。変化に富んだ気象と海の5500マイル(約10200km)を無寄港でラッキー・レディ(旧名ロシナンテ)号で走破するものです。2人乗りの相棒は、岐阜のヨット仲間棚橋祐司君(富山大OB)24才。このレースはNORC主催、サンドリンハム・ヨットクラブ協力の国際色豊かで話題豊富な催しです。

このレースは3回目ですが、ほかのクルーザー・レースと異なり2人のチームワークと信頼の上になりかつ過酷なレースです。高校時代のスナイプ、三戸浜以後の470での国内・海外各レースで、更に大型艇各レースでの豊富な経験と腕を発揮してくれるでしょう。

12月29日、三重県マリーナ河芸を出港。早稲田ヨットクラブとして“ご健闘、安全なる航海を祈る”FAXを送った。以後の予定は、



ダブル・ハンド'95 いざメルボルンへ

日本…父島…ソロモン諸島(1月下旬)…シドニー(2月中旬)と補給・整備を重ねメルボルン(2月下旬)に至るもの。

レースは、3月25日以降の1か月以上を期待したいと思う。過去の実績は30～62日掛かっています。

については費用面も当然なかなか厳しい。渡辺君と、<チャレンジ岐阜>事務局からのお願いが来ている。この壮事を資金的にも応援してあげようではありませんか。

資金計画;1000万円(艇チャーター、備品、航海計器、食料など)11月現在調達、自己資金含めて50%以上。

援助金振込先

大垣信用金庫・輪之内(わのうち)支店
 (普通)0074914
 (口座名)メルボルン／大阪・チャレンジ岐阜
 代表;浅野宗秋
 (TEL)0584-69-2260
 (FAX)0584-69-2275